

※本資料は、今後の当局（IASB・FASB・ASBJ等）の動向、方針、制度に対する弊社の見解を示す資料であり、その内容の正確性または完全性を、（明示的にも暗示的にも）表明あるいは保証するものではありません。

FASB、CECLモデルを維持 - 期待信用損失モデルの比較 -

第18号
Jan-2014

FASBは2013年12月18日のボードミーティングで、**CECLモデルの全期間予想信用損失を維持し、代替案を検討しない合意**がなされました。これにより、期待信用損失の測定に関して両者が目指していたコンバージェンスの可能性が低くなったと懸念されます。今回は、現段階でのIASB及びFASBのモデルを比較してみます。

IASB(3ステージモデル)

信用の質の悪化状況により、3つにカテゴライズし、予想信用損失の見積もります。

段階	振替要件による移管	信用の質	引当金の見積	包括利益計算書計上の利息収益
ステージ1		当初認識以後、著しく悪化していない 又は信用リスクが低い※1	12ヶ月EL	EIR× グロス帳簿価格※2
ステージ2		当初認識以後、著しく悪化した 且つ信用リスクが低い	全期間EL	
ステージ3		減損している客観的な証拠がある		EIR×ネット帳簿価格※2

FASB(CECLモデル)

単一の予想信用損失モデルで測定します。

引当金の見積	包括利益計算書計上の利息収益
全期間EL	EIR×グロス帳簿価格※2

※1 信用リスクが当初認識以後、著しく増加しているか否かの評価の煩雑性とコスト削減の為、例外規定として「投資適格」として格付けされている金融資産は、信用リスクが低いと判断し、著しい信用状況の悪化は生じていないとみなす提案がされています。

※2 ステージ1、及びステージ2は、グロスの帳簿価格（報告時点での償却原価）。ステージ3は引当金を控除した帳簿価格。

※本資料は、今後の当局（IASB・FASB・ASBJ等）の動向、方針、制度に対する弊社の見解を示す資料であり、その内容の正確性または完全性を、（明示的にも暗示的にも）表明あるいは保証するものではありません。

IASBとFASBの減損モデルの主な論点比較表

	IASB	FASB
範囲	<ul style="list-style-type: none"> 償却原価測定 of 金融資産 FVOCIで測定される負債性金融資産 売掛債権、リース債権 FVTPLで測定されていないローン・コミットメント ※再保険契約債権や金融保証契約の取扱など、言及されていないグレーな部分有。	
認識の閾値	閾値は無い。 全ての対象資産の減損を予想される信用損失に基づいて認識する。	閾値は無い。 減損を予想される信用損失に基づいて認識する。
FVOCI	簡便法は無い。 FVOCIも必ず認識する必要あり。	FVOCIは以下の満たす場合に引当金計上を要求しない簡便法がある。 ・「公正価値が帳簿価格（償却原価）を上回っていること」かつ 「個別資産の信用損失が重要でないこと」
信用損失の測定	第1ステージ：12ヶ月の信用損失を見積る。 第2・第3ステージ：残存期間の予想信用損失を見積る。	残存期間の予想信用損失を見積る。
減損引当金の表示	評価性引当金（資産の控除項目）として表示する。	
PCI金融資産	残存期間の信用損失の変化（取得時の予想からの変化）を認識する。 （いわゆる3ステージモデルの一般的アプローチとは異なる）	CECLモデルに従う。
ライトオフ	企業が将来の回収を最終的に合理的に見込めないと判断したときに帳簿価額を直接減額する。	
カテゴリの移管基準	当初認識時から信用の質に重要な悪化があった場合に生じる。 その際、契約条件および元々に信用の質を考慮する。 信用リスクが低くない資産は「投資適格グレード」より下になった場合。 移管の基準が満たされなくなった場合、12ヶ月の予想信用損失に戻る。	測定基準は1つの為、移管基準はなし。
利息不計上	利息不計上の概念が無い。代わりにステージ3はネット帳簿価格（引当金控除後償却原価）を基に計上することにより、予想信用損失分を控除。	企業が実質的に全ての元本及び利息を受取る可能性が高くなった時は、未収利息を計上しない。